

お囃子を学ぶ

令和元年度文化財展・文化財講習会



文化財展 2/1(土)~2/18(火)

会場：狭山市立博物館 エントランスホール 【開館時間】 9:00 ~ 17:00
狭山市に伝わる民俗芸能「お囃子」について、パネルで解説します。

文化財講習会

内容：「お囃子」の演奏について、実際に体験しながら学びます。(全3回)

会場：狭山市立博物館 研修講義室

講習日時：2/1・8・15(土) 14:00 ~ 15:30 (当日の受付は 13:30 開始)

定員：15名(先着順) ※要申込：1/17(金) から電話または社会教育課窓口へ
(連絡先 04-2953-1111 内線 5675)

主催：狭山市教育委員会 協力：狭山市立博物館



＜狭山市立博物館へのアクセス＞

※西武池袋線「稲荷山公園駅」より徒歩3分。

※西武新宿線「狭山市駅」西口より西武バス「稲荷山公園駅」行。終点下車、徒歩3分。

ごあいさつ

令和元年度文化財展・文化財講習会

市内各地で行われる様々なお祭りの時期が近づくと、お祭りの日時や内容などに関する問い合わせと併せて、「お囃子は何時ごろ上演されますか」という問い合わせが多く寄せられます。これはつまり、狭山市内の民俗芸能に対して、多くの方が関心をお寄せいただいているのだと言えるでしょう。ところが、お祭りの撮影などの機会に際して関係者にお話を伺うと、そろって「後継者不足に悩んでいる」「近頃は携わる人が減ってきている」といった話を口にされます。「お囃子」に対して「上演されている様子を見たい、聞いてみたい」と思う気持ちはあるけれども、実際に自分が演奏して携わる、ということになると、敷居が高いと感じておられる方が多いのかもしれません。

そこで、今回の文化財展は、「お囃子を学ぶ」をテーマにしました。「お囃子」はどのように演奏するのか、どのような用語や楽器を使うのか、市内にはどのような「お囃子」が伝わっているのかなど、「お囃子のいろは」を掲載しました。

狭山市内では現在、8つのお囃子の会が各地で活動をしています。今回の文化財展を通して、これまでより少しでも、地域に伝わる民俗芸能を身近に感じ、貴重な文化とのつながりを意識していただければ幸いです。

令和2年2月

狭山市教育委員会（主管：社会教育課）

お囃子の上演方法

お囃子の演奏は、5人編成で行われます。大太鼓一つ、小太鼓二つ、鉦（カネ）一つ、笛一つです。それぞれの楽器には別名があり、大太鼓は「オオカン」、小太鼓は「ツケ」、鉦は「四助（よすけ）」とも呼ばれています。

お祭りでは屋台や山車に乗って演奏し、寺社境内では舞台や神楽殿などで演奏するなど、演奏する場所によって演奏の方法も変わります。狭山市のお囃子は、屋台の上で上演するものが多いです。

狭山のお囃子

狭山市に伝わるお囃子は、「神田囃子」という系統のものと「祇園囃子」という系統のものがあります。

「神田囃子」は、享保元年（1716）に現在の東京都葛飾区にある香取神社（葛西神社）の宮司が編み出したとされる「葛西囃子」から分派したお囃子です。入間地方に伝わるお囃子の多くがこの「神田囃子」の系統です。

一方、「祇園囃子」は、京都の祇園祭りの際に奉納されるお囃子であり、狭山市の「祇園囃子」は、入間市高倉から伝わっています。

<市内のお囃子の系統>

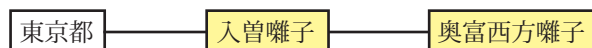
◆江戸囃子（神田囃子）



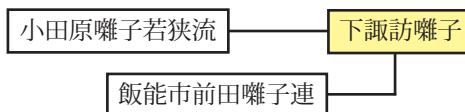
◆江戸囃子（神田王蔵流）



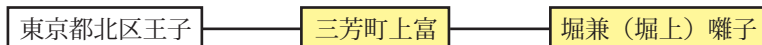
◆江戸囃子（神田徳丸流）



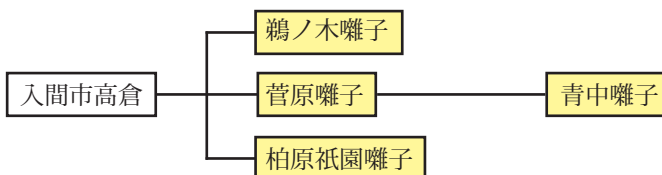
◆江戸囃子（神田若狭流）



◆江戸囃子（神田囃子）



◎祇園囃子



【参考】 埼玉県民俗芸能調査報告書第10集「埼玉の祭り囃子Ⅳ（入間地方編二）」
埼玉県立民俗文化センター 発行（1992年）

狭山のお囃子

入曽・奥富・柏原



西方囃子

西方囃子保存会が継承しており、梅宮神社の甘酒祭りや奥富神社の春季大祭などの祭典に奉納されています。江戸時代に入曽囃子より伝わり、大正年間に一時期途絶えた入曽囃子へ伝授したとされています。平成13年度末に市指定文化財指定の方法について保存会から問い合わせがあったことをきっかけに、市指定文化財の指定基準が作成されました。

【上演情報】

元旦祭（八雲神社・1月）、梅宮神社の甘酒祭り（2月）、奥富神社春季大祭（4月）、入曽の天王さま（八雲祭）（野々宮神社・7月）、八雲神社大祭（奥富の天王さま）（7月）、西方浅間神社大祭（7月）、入間川の七夕まつり（8月）

【連絡先】

04-2952-8577（西方囃子保存会会長）

入曽囃子

入曽囃子保存会が継承しており、野々宮神社において、元旦祭や初午祭などの祭礼に奉納されています。地元には伝わっていた里神楽という説と、文政年間（1818～30）に江戸徳丸（現在の東京都板橋区）から伝授されたという説があります。

【上演情報】

元旦祭（1月）、観音待ち（常泉寺観音堂・1月）、節分会（2月）、初午祭（2月）、春季例大祭（4月）、入曽の天王さま（八雲祭）（7月）、秋季例大祭（10月）、新嘗祭（11月）



柏原祇園囃子

柏原郷土芸能会が継承しており、柏原白鬚神社境内社八坂神社で行われる柏原の天王さまに奉納されています。入間市高倉から伝えられたとされ、かつては村祭りの囃子として、村の有志が演奏していたといわれています。昭和60年に柏原郷土芸能会より市指定文化財指定申請があったのち、度重なる調査や審議の結果、平成15年に西方囃子とともに市指定文化財となりました。

【上演情報】

柏原の天王さま（柏原白鬚神社境内社八坂神社・7月）





04-2953-2679 (広瀬嚙子保存会会長)

04-2953-7087 (笹井囃子連会長)



04-2952-4945 (青中嚙子連会長)

入間川・堀兼 狭山のお囃子 (3)



鶺鴒ノ木囃子

鶺鴒ノ木囃子連が継承しており、入間川中学校で行われる鶺鴒ノ木夏祭りで披露されます。入間市高倉から伝わったとされています。一時期活動を中止していましたが、入間川地区の有志によって、新たに活動を開始しました。

【上演情報】

鶺鴒ノ木夏祭り（入間川中学校・7月）

堀兼（堀上）囃子

堀兼囃子連が継承しており、堀兼の天王さまや堀兼神社の秋季大祭などの祭礼に奉納されています。堀上囃子は、堀兼地区にも囃子連を作りたいという地元有志のもと、三芳町上富囃子連から習得したとされています。現在は堀兼囃子と名称を改めています。

【上演情報】

元旦祭（堀兼神社・1月）、堀兼神社の大祭（4月）、堀兼の天王さま（堀兼神社・7月）、堀兼神社の秋季大祭（10月）



活動休止中のお囃子

ここまで狭山市内で活動する8つのお囃子を見てきましたが、この他にも狭山市内には、現在活動を休止しているお囃子の団体が2つあります。



（左）菅原囃子

入間市高倉に伝えられている囃子を、菅原町の自衛消防団の人たちが中心となって習ったとされています。現在は活動を休止していますが、菅原囃子連によって継承されています。八幡神社の元旦祭や天満天神社の天満宮例祭などの祭礼に奉納されていました。

（右）下諏訪囃子

天保年間（1830～1844）のころから、氏子の手によって農民演芸として型を作ったとされています。現在は活動を休止していますが、下諏訪囃子連によって継承されています。清水八幡宮の例大祭や、入間川の七夕まつりなどに奉納されていました。

篠笛の音が出る仕組み

笛はどうして音が出るの



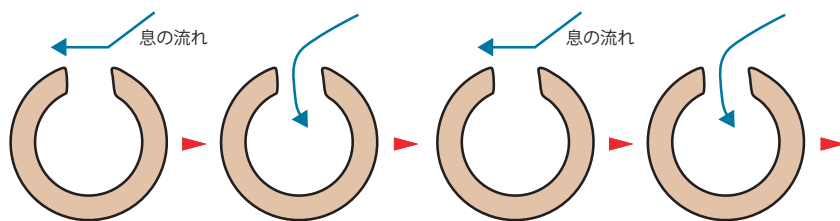
お囃子の練習での大きな壁となるのは、きっと最初の音を出すだと思います。どうすれば音が出やすいかを簡単にご紹介します。

篠笛は歌口（吹き込み口）に空気を当てることによって発生する風切音を増幅して音にしています。

笛自体が震えているわけではなく、歌口のエッジの部分に細く集約された息の束（ビーム）が当たった際に空気の渦が発生し、笛の筒の中の空気が震えて「ひょーう」と音が出ています。これにかなり近いものがペットボトルに口を当てて息を吹き込んだときに鳴る「ぼー」という音です。

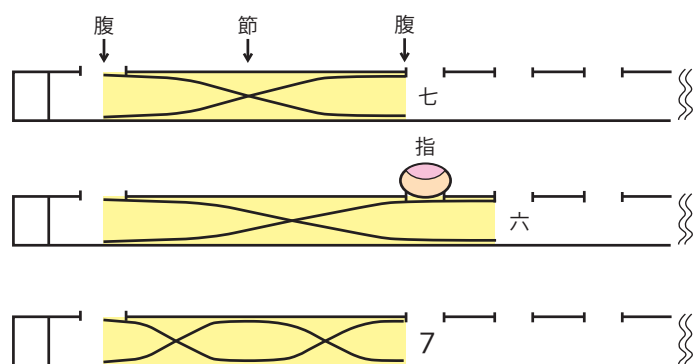


<歌口部分の空気振動>



また、音階については、運指（指で穴を開閉すること）によって調整します。歌口に息を当てて笛を吹くと、歌口から指孔までの空気の柱が全体として鳴っています。指孔を全て開放している時は、歌口から歌口に一番近い指孔までの空気柱が振動します。歌口側から順番に指を押さえていきますと、どんどんその空気の柱の長さが長くなり、空気の柱が長ければ長いほど低い音が出ます。

<運指・息遣いによる波長の変化>



七の呂の音（普通の高さの音）

六の呂の音（普通の高さの音）

七の甲（カン）の音（1オクターブ高い音）

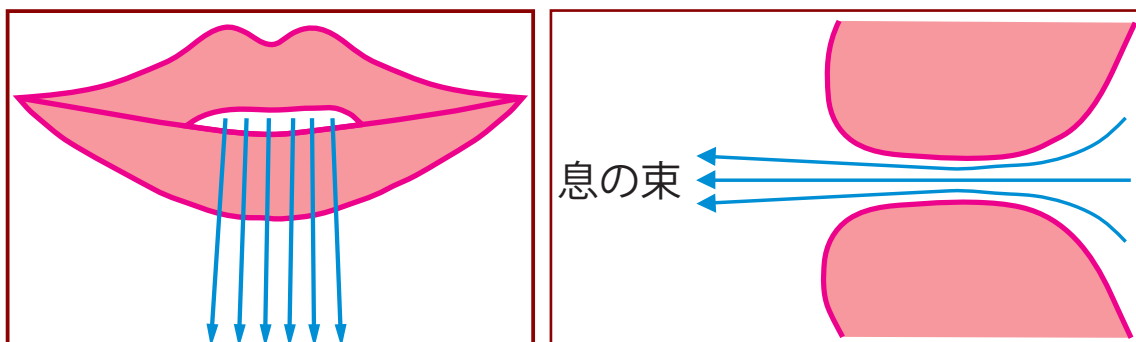
篠笛の音が出る仕組み

篠笛の音の出し方

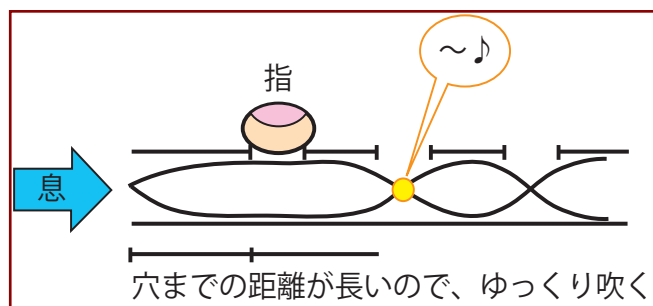
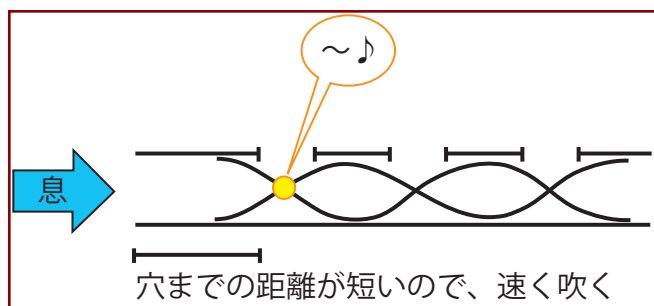
色々な音を出すためには

ペットボトルと同様、笛もそれぞれの音に対応した最適な吹き込み方があります。

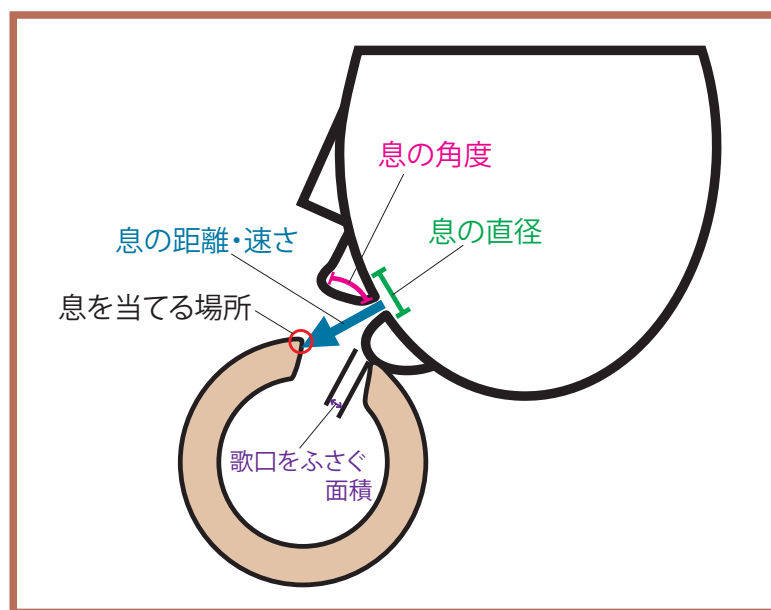
- (1) 口は潰したストローを吹くような形で唇を柔らかく固定します。
- (2) 唇は中央に寄せて硬くすることがないように、また、口の中には舌が動く程度の空間を持たせて、息を細く長く吹くと、綺麗な層状の息の束が出来ます。



<唇を柔らかく閉じ、息を広く吹き出す（「ホー」というイメージ）>



- (3) 吹き込む息の調整が終わったら、笛の歌口に口を当て、調整していきましょう。



	高い音を出す	低い音を出す
吹き込む息の直径	細く	広く
吹き込む息の速さ	速く	ゆっくり
吹き込む息の歌口の角度	立てる	寝かす
吹き込む息と歌口の距離	近く	遠く
歌口を塞ぐ面積	多く	少なく

篠笛の音の出し方

お囃子の今

狭山市の現状

今回の文化財展では、お囃子の基本から各地区のお囃子の紹介まで、狭山のお囃子について紹介しました。

冒頭あいさつでも述べましたとおり、お囃子の保存団体は、会員や後継者が不足しているのが現状です。中には活動を休止せざるを得ないお囃子もあり、その数は年々増えつつあります。一方で、一度は活動を休止したものの、他の団体や地元有志の手によって、もう一度その音色を再び響かせ始めたお囃子もあります。

さて、今回の文化財展をご覧になってどのようなことを感じられたでしょうか。「もっとお囃子について知りたい」「挑戦してみたい」と、少しでも感じていただけたでしょうか。

今回、一部ではありますが各地区のお囃子の継承団体の代表者様にご協力をいただき、連絡先を解説パネルに掲載しました。この文化財展および同時に開催されております文化財講習会を通じて、「お囃子」に興味をお持ちいただけた方に、各お囃子の団体に連絡をとり、つながっていただきたいという思いを込めて掲載しました。ぜひ、これからも積極的に、皆様の身近で息づいている「お囃子」に触れていただければ幸いです。



お囃子の今